

調査団体名	カエルの分校	団体代表者名	大内秀之
活動地域	豊田市竹村地区及び松平町	団体URL	http://kaerunobunkou.cocolog-nifty.com/blog/
<p><活動内容></p> <p>1) 竹村新池の保全活動: 1985年頃、池を埋め立てて駐車場にするという話が出た時から活動開始。観察会活動などによって粘り強く地域住民の啓発、竹村小学校との連携を図り、池を潰廃から守った。農林水産省補助事業による池の修復の際も、生物多様性を重視し、他所から持ち込まず、昔からいた生物種の復元の原則を貫き、ようやくトンボ20種のレベルまで回復してきた。池畔には学校エリアがあり、子どもたちによる生態系復元や清掃、研究などが行われている。</p> <p>2) 松平地区などの山間の耕作放棄された田んぼにおける湿地生態系の復元: カエル谷、風の谷、霞谷など4カ所。土砂で埋まったり草木が繁茂したりしている休耕田の地主を探し出すところから出発。この地域に生息してきた多様な生物種の存続のために、埋まった水田の掘り起こし、畦の復元などで環境を整え、生物の回帰を待つというやり方で、トンボ56種が確認されるまで来た。この調査の日(2009.3.23)にも、メダカ、ホトケドジョウ、ドジョウ、シュレーゲルアオガエル、ヤマアカガエル、マツモムシ、アメンボなどが観察された。カモシカ、タヌキなどの大型哺乳類が活動し、最近キツネも確認されたという。地域の子もたちが、この生態系の守り手として育つことを願って活動を進めている。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>豊田市役所環境政策課との連携あり。生息生物調査の委託を受けて報告書を作成している。市交流館の講座を引き受けたり、小学校での出前授業も行っている。他団体のビオトープ活動などに関する相談や指導も行っている。</p>			
<p><今までに行った調査・研究></p> <p>○トンボ、カエル、鳥類の生息調査報告書(豊田市)。 ○共著で「中央アルプスの自然」(長野県)、「アテビ平の自然」(売木村)などがある。</p>			
<p><現在直面している課題></p> <p>1) イノシシ対策が大変である。せつかく造った畦などが破壊され、水が抜けてしまうことがある。 2) 子どもたちが雨宿りできる観察・休憩小屋を建てたいが、建築基準法の壁が厚い。 3) 生物多様性と真っ向から衝突する親水機能の問題。竹村新池における釣り愛好者たちとの交渉は大変である。ルアーフィッシングは禁止になったが、ヘラブナ釣り愛好者は多く、リリースや水草の勝手な刈り取り、ゴミの放置、子どもたちの追い払いなど、様々な問題が起きる。 4) 若者、子どもたちへのバトンタッチが今後の最大の課題となろう。</p>			
<p><今後どんな情報が必要か></p> <p>湿地生態系復元活動の適地はたくさんある。次代を担う若者との情報交換の機会が広がって、こうした生態系の保全と復元に汗を流す多くの担い手が育ってほしい。</p>			



カエル谷全景。土砂の下から水田を掘り出した



竹村新池全景



竹村新池学校ゾーンと釣り人



ドングリからここまで育った林(竹村)



竹村新池掲示板(カエルの分校パネル)



竹村新池水辺。枝折用水がきている



カエル谷の小屋



大内さん。カエル谷にて



風の谷のメダカ



風の谷